

よくあるご質問

除草効果

Q 処理後、雑草に対し効果発現、効果完成はおよそ何日かかりますか。

A 草種にもよりますが1週間程度から2週間程度で効果発現し、
2週間から1ヶ月程度で効果完成します。

Q 残効はどのくらいありますか。(抑草期間はどのくらいありますか。)

A 一般的な非農耕地雑草に対して1ヶ月程度あります。

Q 処理時、適当な土壌水分はどのくらいですか。

A 土質にもよりますが、土を手で握って水気を感じずに固まらない状態では
有効成分が溶出浸透しないので水分不足の状態です。
粘土質などで土の表面に水が浮いている状態は水分過多で、有効成分が
流亡しやすいため不適切な水分状態です。
通常雑草が生育する土壌の水分が散布に適当です(pF値1.5~3程度)。

Q 処理後の降雨・降雪による影響はありますか。

A 処理後数日以内に一時間当たり10mmを越えるような大雨があった場合、
薬剤が流亡して処理層が形成されず十分な効果が得られない可能性があります。
降雪のみでは影響ありませんが、みぞれに変わった時や融雪時に水分過多になり、
効果へ影響を及ぼす可能性はあります。

Q 効果変動要因(効果不足)はありますか。また、その理由は何ですか。

A 極端な土壌の乾燥状態(薬剤不溶解)、散布直後の大雨(薬剤流亡)、
散布直後の野焼き(薬剤分解)、散布後一ヶ月以内の耕起(処理層の攪乱や埋土種子の露出)。

Q 本剤は雑草のどの部分に作用し、除草効果を示しますか。また、ガス作用はありますか。

A 根から吸収された有効成分は、植物体内で還元され酸化力の強い亜塩素酸や次亜塩素酸を生じます。
それらが植物全体の細胞内の成分組成に影響を与えて細胞の活動を停止させることで枯死に至らしめます。
有効成分のガス作用はありません。

Q 雑草種子に対し、発芽抑制効果はありますか。

A 有効成分は水溶して発芽途上の雑草種子(植物体)に吸収されて枯殺します。

Q どれぐらいの大きさの雑草まで枯らすことができますか？

A 非農耕地に関しての適用範囲は雑草生育初期～中期処理です。

その時期に存在する一般的な草種に対して大きさ20～30cm程度までの個体を枯らせます。

除草効果(水稲刈取跡)

Q 使用時期は秋期雑草生育期とありますが、いつまで処理できますか。

また、効果的な処理適期はいつですか。

A 刈り取り時点から存在する雑草が対象となりますので、刈り取り年内の実際には冬場まで処理が出来ます。

草種によっては至適な散布時期が存在する知見もあります。

Q 雑草の発生が多い部分にスポット処理は可能ですか。

A 水稲刈取跡適用方法の中にスポット処理は含まれておりません。

全面に均一散布して下さい。

Q 刈取後、圃場に稲わらが残っていますが、効果に影響がありますか。

A 効果への影響はほとんどありません。

Q 秋期処理を行うことで、次年度春期の水田雑草の発生を抑えることはできますか。

A 明瞭な効果は確認されていません。

Q 処理後、秋起こしをしても良いですか。

A 処理後に秋起こしをする場合、薬剤処理層を攪乱しないために散布処理から1ヶ月は

経過させてから秋起こしをして下さい。または、秋起こし後に処理をして下さい。

Q 問題となっているクログワイ、オモダカなど水田多年生雑草対策として活用できますか。

A 塊茎を形成する多年生雑草に対して根絶効果は期待できません。

但しオモダカに対しては密度低下効果が実証されており、農薬登録を取得しています。

Q 漏生イネや雑草イネの次年度発生を抑制することはできますか？

A 種籾に対する発芽抑制効果は室内試験で確認しており、

雑草イネについては弱いながらも圃場における個体数抑制効果(密度低下)の実証はなされております。

除草効果(非農耕地)

Q 一年生及び多年生雑草で効果の低い草種はありますか。

A 有効成分の作用性から非選択的に除草効果を発現します。

ヨシなど多湿土壌に生育する雑草には土壌からの有効成分の浸透量が少なくなる場合があるため、効果が低くなることもあります。

生育期を過ぎた雑草は茎葉部への有効成分の移動量が少なくなるため、効果が低くなる傾向にあります。

Q ゼニゴケには効果がありますか？

A 防除効果の実証はされていません。

除草効果(竹類)

Q 処理適期はいつですか。また、処理後の効果発現、効果完成はおよそ何日かかりますか。

A 竹類では地上部、地下部の生育が緩慢な春または秋の散布が適切です。

種類にもよりますが効果発現は早くて1ヶ月程度後からで、効果完成は3ヶ月程度より遅い場合もあります。

Q 処理量の目安はありますか。

A 処理量は45～60g/m²になります。

太いモウソウチクなどに対しては高薬量の使用をお勧めします。

Q 枯らしたい竹の株元へスポット処理すればよいのですか。

A 竹類に対する使用方法は全面土壌散布となっています。

竹は広く根系が存在するので、枯らしたい株元にスポット処理するよりも根の張っている株元から広い範囲に均一散布することで多くの薬剤が浸透され、枯殺に至りやすくなります。

Q デゾレートを散布しても枯れなかった竹から出てきたタケノコを食べても良いですか。

A 食用部位への安全性は確認されておられませんので、

少なくとも散布後1年以内に生じたタケノコは食べないで下さい。

散布後1年以上経過していれば成分は分解されていると考えられます。

薬害安全性(水稲刈取跡)

- Q** 次年度の水稲に対して薬害の心配はありませんか。
作付けまでどの程度期間を取れば問題ないのですか。
- A** 刈り取り後の12月～翌年1月頃の散布で次年度の水稲に対して薬害が出た事例はありません。
散布後3ヶ月経過していれば作付には問題ありません。
-
- Q** 寒冷地の場合、次年度の水稲に対して薬害の心配はありませんか。
- A** 散布から3ヶ月程度経過していれば寒冷地でも薬剤は分解しており、水稲に対して薬害は出ません。

薬害安全性(非農耕地)

- Q** 樹木の株元まで処理しても問題ないですか。
- A** 多くの樹種に対して落葉や枯死などの影響を及ぼすので、株元までは処理しないで下さい。
樹木の高さより更に1～2m程度離れた位置までの処理に止めて下さい。

登録内容・注意事項(水稲刈取跡)

- Q** 次年度直播栽培を予定していますが、使用できますか。
- A** 通常の使用が可能です。
圃場均平など土壌を攪拌する作業は薬剤散布後1ヶ月以上経過してから行って下さい。
-
- Q** 注意事項に「本剤の連用は避けること。」とありますが、同一圃場で毎年使用できますか。
- A** 連用について特に問題は確認しておりません。
本剤の有効成分は食塩まで分解され、一般的には後作の灌漑水で食塩は除去されると考えられます。
地下水位が高いなど溶脱しづらい状態を確認されている圃場などで連用している場合には、
念のため電気伝導度(EC)測定を含む土壌分析を行い、塩類の状況を確認してから作付して下さい。

取り扱い

- Q** 保管時および取り扱い時に注意することはありますか。
- A** 医薬用外劇物に該当しますので、盗難・紛失などの事故を防止するため、
薬剤は普通物の製品と区別して鍵のかかる冷暗な保管庫で保管して下さい。
取扱いに関しては、通常の保護具を着用し除草目標区域の外へ飛散しないように散布して下さい。
その他、使用上の注意事項を遵守して下さい。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は従来品に比べて難燃性に製剤してあるが、散布前後には散布機をよく清掃して油や汚れを拭き取る。
- 散布時本剤が身体や作業衣に付着の少ないよう風向等に注意し、散布したところを歩かない。
- 本剤のしみこんだ作業衣は、火気に対して燃えにくくなっているが、作業後水洗いする。
- 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意する。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 本剤は家畜が好んで食べて中毒を起こすことがあるので保管に注意し、また使用直後の使用区域への家畜の放飼は行なわない。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

⚠ 保管・取扱い上の注意

- 必ず責任者を決めて保管庫に入れ、カギをかけて保管する。
- 火気をさけ、直射日光の当たらない鍵のかかる低温で乾燥した場所に密封して保管する。
- 使用残りの薬剤は必ず鍵のかかる安全な場所に保管する。
- 本剤はリン、イオウ、アンモニア塩類及びアンモニア性肥料、ガソリン・灯油等の油類、強酸性物質、木・繊維類のような可燃物との混合は危険なので、同一保管をさける。
- ★盗難・紛失の際は、警察に届け出る。
- ★火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
- ★漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- ★移送取扱いは、ていねいに行う。
- ★空袋は圃場などに放置せず、環境に影響を与えないよう適切に処理する。